

弓削商船高等専門学校 第2回運営諮問会議報告書

平成17年10月

目 次

はじめに	1
1. 第1回運営諮問会議の提言	2
2. 提言に対する学校の対応	2
3. 第2回運営諮問会議諮問事項	4
4. 審議内容	4
5. 提言	5



はじめに

平成16年11月開催の第1回運営諮問会議に引き続き、本年7月11日（月）に第2回運営諮問会議を開催いたしました。

第1回会議では「本校の特徴を活かした個性的教育」と「本校に適正な入学生の確保と個性伸長のための教育改善」の2項目について諮問し、運営諮問委員の方々には熱心な討論と大変有意義なご提言を頂きました。

今回の会議では、冒頭でまず前回ご提言頂きました内容を整理し、それらに対する本校の対応を詳しくご説明した後、次の2つの事項について諮問いたしました。

一つ目は「本校の社会貢献について」です。国立学校が独立行政法人化され、高専の社会貢献も以前より重視されるようになりました。本校においても、地域社会や産業界との連携をいかにして強化すべきかは重要な課題であります。

二つ目の事項は「専攻科の発足と内容の充実に向けて」です。本校では平成17年4月、従来より高度な実践的技術者を養成することを目的に専攻科が発足いたしました。この専攻科は近隣の高等教育機関・産業界・地域社会のご理解ご協力を得つつ、発展させて行かなければならないと考えております。

第2回会議でも各委員の方々から多様なご意見が出されるとともに、大変有意義なご提言を頂きました。本報告書はそれらを要約したものです。

最後に、ご多忙中にもかかわらず本校の発展のためご助言をいただきました、西田委員長をはじめ運営諮問委員の方々に厚くお礼を申し上げます。

今回いただいたご提言は前回同様、本校の更なる教育研究活動の改善に役立てていく所存であります。

平成17年10月

弓削商船高等専門学校校長

西 垣 和

1. 第1回運営諮問会議の提言

前回（平成16年11月30日開催）の会議においては、2項目の諮問事項に対して、それぞれ下記のとおり提言を行った。

(1) 本校の特徴を活かした個性的な教育について

- 練習船「弓削丸」を活用した個性的な教育活動の充実。
- 地域社会のニーズを取り入れた、実践的技術者の養成。

(2) 本校に適正な入学生の確保と個性伸長のための教育改善について

- 募集単位の検討を含めた入試制度の改善、ビデオメッセージなどのAVを活用したPR活動の充実。
- マスメディアを活用した教育的成果の公開。
- 公開授業の実施。
- 専攻科教育を活用した地域産業への貢献。
- 県教委主催の会議、学警連等の会議や連絡会への参加。

2. 提言に対する学校の対応

第1回会議で行った提言に対する学校の対応として、以下のことについて確認できた。全般的には、限られたスタッフの中で良く努力されていることが窺えました。これらのことは今後も継続して努力されることを希望します。

- 練習船「弓削丸」を活用した個性的な教育活動の充実

平成16年度に実施した主な教育活動は、四国地区高専連携・交流事業「特別講義」（10月15日から10月18日で実施）、弓削丸利用者研修会（12月1日実施）、「1日船長」（7月24日実施）、公開講座（夏季休業中に実施）であった。特に、四国地区高専連携・交流事業（特別講義）は高専機構本部より高く評価されている。

平成17年度に実施予定の主な教育活動は、四国地区高専連携・交流事業「特別講義」（「環境とエネルギー」をテーマにして、本校を会場に8月22日から8月25日で実施予定）、弓削丸利用者研修会（6月10日実施）、「1日船長」（7月23日、24日の2日間、丸亀・高松地区で実施予定）、公開講座（本校の実践教育をテーマに講座内容を改善・追加して夏季休業中に実施予定）である。また、新たに5商船高専共同プロジェクト「e-操船支援システムの開発」を個性的な教育活動の目玉に据えて、5商船高専が協力し、早期の実現に向けて鋭意努力中であることが確認できた。

以上の教育活動に加えて、山口徳地少年自然の家や尾道市（みなと祭り）の行事などに弓削丸が参加するなど、開かれた高専を実現するためにも練習船が活用されている。

- 地域社会のニーズを取り入れた、実践的技術者の養成

地域のニーズに応えるため、IT技術対応型の造船技術者教育支援プログラムを提案し、文部科学省が大学・高専を対象に奨励している「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に応募されている。

未曾有の造船マン不足に悩まされている「しまなみ海道」地域を視野に入れた、「NC工作機械などを使いこなせる高度な造船技術の基礎を短期間で修得させる教育計画」であって、地域社会が

求めている人材育成の要請に充分応えられるものと思われる。

○募集単位の検討を含めた入試制度の改善、ビデオメッセージなどのA Vを活用したP R活動の充実

平成18年度の入学試験に向けて、新入生の学力テストと在校生の追跡調査を行い、入試方法の改善を検討された結果、平成18年度の入試は、「入試方法に関するWG」の検討結果を踏まえて、昨年度と同様に実施することとなった。

なお、電子機械工学科及び情報工学科については、入学志願者数が右肩下がりであるため、今後更にP R等に努める必要があるということである。

○マスメディアを活用した教育的成果の公開

平成17年3月に学校のホームページを刷新されている。学校のイメージアップとアクセス数増加の効果を期待できる。さらに、記事の更新をしやすいくするため、記事の投稿を簡単にし、将来的には教員レベルでの更新を可能にする。また、記事をデータベース化することにより、全ての記事に検索を行う機能が追加されるということである。

○公開授業の実施

平成16年度は、本校教員の教授能力を向上させるために、モデル授業による公開授業を実施されている。総合教育ではホームルーム、化学及び音楽などで、専門科目では情報工学科を中心に情報処理、データベースなどの科目で開催されている。参加した教員のアンケートも踏まえて、今年度も継続して開催することを、各学科に奨励されている。

平成17年度は外部の教職員（中学校・高等学校を中心に）を対象にした公開授業を積極的に開

催して、授業の改善に役立てる計画である。既に、商船学科では船員教育の看板である「操艇・通信」の授業を取り上げて、近隣の中学・高校教員を対象に授業参観を実施されている。また、電子機械工学科においては、「工学実験」の公開授業を近隣中学校の生徒を対象に行なわれる予定である。

○専攻科教育を活用した地域産業への貢献

今治市における「自立型地方都市再生のための地域力整備検討委員会」に校長が委員長として参加されている。また、上島町における「上島町造船産業振興計画検討委員会」に教授1名が委員として参加されている。さらに、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に、独自のテーマで「自立型地方都市再生のための人材育成支援プログラム」を申請されている。

なお、現在行っている受託研究は1件、共同研究は3件ということである。

○県教委主催の会議、学警連等の会議や連絡会への参加について

地元地域の連絡協議会等へ積極的に参加されている。各連絡協議会に参加することによって得られた情報を、学生への生活指導として実践し、改善に努力されている。



3. 第2回運営諮問会議諮問事項

平成17年7月11日(月)開催の運営諮問会議において、諮問された事項は以下のとおりである。

(1) 本校の社会貢献について

国立の高等教育研究機関の大きな使命の一つに社会貢献がある。特に高専では地域に密着して社会に貢献することが大きな目標となっている。本校は瀬戸内海のほぼ中央に位置し、しまなみ海道沿いの唯一の国立の高等教育機関である。この地域は古くから海事・海運・造船の盛んな地域として知られており、海事クラスターの連携組織が形成されている。

本校が行っている公開講座・共同研究及び受託研究等（企業等からの委託を受けて行う教育・研究業務）などの活動状況を知って頂き、社会貢献として望ましいあり方についてご提言頂きたい。

(2) 専攻科の発足と内容の充実に向けて

平成17年4月1日付けで、海上輸送システム工学専攻と生産システム工学専攻の2専攻が設置されました。専攻科の特徴は、最先端の知識の教授のみならず、工学の基本的知識を縦横に应用でき、問題提起能力、解析能力及び問題解決能力、を高めるような教育を行うことでもあります。すなわち、早期専門教育や実験実習等の実践的教育によって培われた中堅技術者としての能力・素養を基盤として、大学卒業生とは異なる実践的能力に裏打ちされた創造力、技術開発能力あるいは工学的センスをもつ高度な実践的専門技術者を養成することを目的としています。

専攻科は発足したばかりですので、専攻科としての特徴を出し、本科の学生・保護者・地域の人々・企業に理解していただき、より良い学生の確

保に務めなければなりません。特別研究においては、地域共同研究推進センターと共同し地域における唯一の高等教育機関として、企業よりテーマを提供して貰い、地域への貢献に務めなくてはなりません。また、弓削商船高専専攻科の存在を社会・企業及び大学院等に認識してもらい、修了生をより良い進路に導けるよう努力していかねばなりません。

専攻科は、本年4月にスタートしたばかりですが、専攻科の内容の充実及び今後のあり方についてご提言頂きたい。

4. 審議内容

(1) 第1回提言に対する本校の対応

- ・「弓削丸」を活用した教育活動や公開授業、5商船連携等、良くやっていると思う。
- ・学生指導については、これからも開かれた学校という方向でご努力いただきたい。また、学生同士で戒め合うというような体制づくりにも力を入れていただきたい。
- ・公開講座について、もう少しアピールが必要だと思う。

(2) 本校の社会貢献について

- ・インターンシップ、キャリアサポート、協力講座等を作って、企業と組んで講義を行ってはどうか。
- ・社会教育に同窓会をもっと利用したらどうか。
- ・福祉関係の現場をボランティアで体験してほしい。
- ・産業界のニーズ、学校のシーズを分かり合えることをより重視することが必要である。
- ・研究テーマをパネルにして、技術フォーラムを開いていただきたい。

(3) 専攻科の発足と内容の充実に向けて

- ・船舶管理、人の管理ができる技術者を養成して
いってほしい。
- ・海上だけではなく、陸上等様々な荷役の方法に
対応できる等、社会のニーズに合うようにやっ
てほしい。
- ・中学生に対して、夢を与えられるようになって
もらいたい。
- ・若い人の目をいかにこちらへ向けさせるかとい
うことが大事であると思う。

5. 提言

第1回会議の提言に対しては、様々な事に取り
組まれており、その努力が窺えました。これから
も教育研究活動の改善に努力し、さらに発展され
ることを期待しています。

また、今回の諮問事項に対しては以下のとおり
提言いたします。

(1) 本校の社会貢献のあり方について

教育面においては、インターンシップ、キャリ
アサポート等を充実させ、学校と企業の協力体制
を築けるよう努力してください。また、学生に福
祉関係のボランティア活動を体験させることなど
も提案いたします。

研究面においては、産業界のニーズ、学校のシ
ーズをお互いに把握する事が重要であると考えま
す。これからは技術フォーラムを開催する等、産
学連携により力を注いでください。

(2) 専攻科の発足と内容の充実に向けて

専攻科が発足したことで、周辺地域の中学校か
ら関心を持ってみられ、注目されています。

特に海上輸送システム工学専攻においては、船
舶の管理、人の管理ができ、海上だけではなく様
々な物流システムに対応できる新しい時代の高度
な実践的技術者を養成していただきたいと思いま
す。

専攻科が若者に夢を与えられるような教育機関
になられることを期待しています。

平成17年10月31日

運営諮問会議

委員長	神戸大学理事・副学長	西田修身
委員	上島町長	上村俊之
〳	今治市立伯方中学校長	馬越義文
〳	弓削商船高専同窓会長 坂田汽船(株)代表取締役	小田原照明
〳	(財)えひめ産業振興財団専務理事	白石春美
〳	因島商工会議所会頭	村上祐司





独立行政法人国立高等専門学校機構 **弓削商船高等専門学校**

〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000

TEL (0897) 77-4606 (庶務課)

ホームページ <http://www.yuge.ac.jp>
